

98. 7

霊性センターニュース

124号



福者三位一体のエリザベット (7)

霊性センターカルメル

断想 (128)

ヘンリ・ウェン「旅路の糧」 (3)

キリシタンのこころ (5)

神の賜ものと教会生活 (2)

フォコラーレニュースより

詩

諸々の企画についてのご紹介

お願い

福者三位一体のエリザベット(7)

思い出してください、聖母よ。

チプリアノ・ボンタッキョ
(カルメル会司祭)

「思い出してください、聖母よ。イエスの聖心の上にあなたが与えられた限りない力を」(詩27)。

「神はその聖心に対して、あなたが何でも出来るようにしてくださいました」(詩48)

このように福者三位一体のエリザベットは深い信頼をもって聖母に祈っていたようです。

エリザベットは聖母に自分を捧げていました。そして、聖母の祝日毎に自己奉献を更新していたようです。その日記の1899年2月2日(当時聖母のお潔めの祝日でした)に次の言葉を書いています。

「聖母の祝日に私の天の母への奉献を更新いたします。今日は聖母に自分を委ね、その腕の中にこの身を投げ込みました。私の将来、また、私の召命のことをお願いいたしました」。

福者エリザベットは、1901年の12月8日にカルメル会の修道服を与えられました。数年後、1906年の7月にアングレス神父に手紙(No.248)を送っています。自分の死が近いことを予感して、次の言葉を書いています。

「小羊の婚宴(天国)に与かるために花嫁が身に着ける光輝く清い亜麻布の衣(黙示録19・7~8 参照)を着せてくださるように、カルメル会の修道服をくださった無原罪の聖母に祈っております」。

エリザベットの目を

「十字架のもとに立っている悲しみの聖母」(ヨハネ19・26)や

「これらのことをことごとく心に止めて思いめぐらしていた」(ルカ2・19)

というマリア様のお姿をよく見つめていました。

娘とのお別れを深く悲しんでいたお母さんに入会したその月(1901年8月)に手紙(No.84)を送っています。

「悲しみの聖母に母を慰めてくださるように祈っています。……毎晩悲しみの聖母の御像の前に行って、あなたのことをマリア様にお話します。今日もペンをとる前に悲しみの聖母に祈りました。……私は悲しみの聖母の涙をとっても愛しています。その涙を、エリザベットのことを思って母が流している涙と一緒に捧げています」。

エリザベットが眺めている「悲しみの聖母」は深い悲しみに沈んでいながらも、心に深い平和と信頼を保ち、人類購いの業に参加するためにイエスと共に苦しむことを積極的に受け入れている聖母です。（手紙No.117,279;最後の黙想 15）

「マリアの十字架のもとに立っています。主は私に『あなたの母を御覧なさい』と言って、私にマリアを母として与えてくださいました。……御父のもとに帰えられたイエスは、今私を十字架（病床に伏していた）にかけてくださいました。それは『イエスの苦しみに欠けているところをその体である教会のために、この私の身をもって補う』（ヨハ1 1:24）ためです。聖母は今も十字架のもとに立っています。それは私にイエス様と同じ心で、この苦しみを捧げるように励ましてくださるためです」。

上に書いたようにエリザベットは聖言葉を「心にとめて思い巡らしている」というマリアのお姿もよく見つめていました。

「聖母の全生涯をこの言葉に要約することが出来ると思います」（巖の鷗15）。
「御託身の後の聖母の魂はどんなものだったでしょうか。どんなに深い沈黙と潜心と礼拝のうちに、自分の胎内に於いて受肉なされた聖言葉を抱きしめていたことでしょう」（No.152）

「私も聖母のように聖言葉を心に取めて思いめぐらしながら全生涯を過ごしたいと思います」（No.153）。

聖言葉に対する深い信仰の態度は、聖母をキリストの奥義の中に導いたものです。そこでエリザベットは勧めています。

「自分が深く読み取ることが出来たキリストの奥義の中に私たちも導いてくださるように、聖母に近づきましょう」（No.138）。



霊性センターカメル

1. 聖書深読黙想会 原則として(奇数月)土、夕食～日、午後4時30分

(1) 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

連絡：(申込み) 吉田敦子 03-3721-2472

〒145-0071大田区田園調布4-2-8

- ① 1月31日(土) 夕食～2月1日(日) 昼食[1泊](指導) 九里 彰 師(了)
- ② 3月14日(土) 夕食～3月15日(日) 昼食[1泊](指導) 奥村一郎 師(了)
- ③ 5月16日(土) 夕食～5月17日(日) 昼食[1泊](指導) 九里 彰 師(了)
- ④ 7月4日(土) 夕食～7月5日(日) 昼食[1泊](指導) 星野正道 師
- ⑤ 9月19日(土) 夕食～9月20日(日) 昼食[1泊](指導) 奥村一郎 師
- ⑥ 11月28日(土) 夕食～11月29日(日) 昼食[1泊](指導) 奥村一郎 師

(2) 宇治テレジア修道院(黙想)

連絡：有光信子

〒663-8033西宮市高木東16-18-504 TEL & FAX.0798-67-8132

- ① 2月21日(土)～22日(日)(指導) 奥村一郎師(了)
- ② 6月6日(土)～7日(日)(指導) 奥村一郎師(了)
- ③ 9月19日(土)～20日(日)(指導) 中川博道師
- ④ 11月14日(土)～15日(日)(指導) 奥村一郎師

(3) 日本カトリック研究センター(名古屋)

〒464-0834 名古屋市昭和区広路町隼人30 TEL.052-831-5037

FAX.052-831-5317

連絡：小林 厚

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 TEL.-52-701-3685

- ① 5月16日(土) 夕食～17日(日) 昼食 申込み締切り：5月1日(了)
 - ② 10月24日(土) 夕食～25日(日) 昼食 申込み締切り：10月1日(木)
- 定 員：21名

(4) 大分聖テレジア修道院(黙想)

連絡：冨田恵子

〒870-1125 大分市上宗方1800-3 TEL.0975-41-4012

10月17日(土)～18日(日)

(5) 聖書深読箇所(通信) 原則として月の第2日曜日

2/8	年間第五主日	ルカ	5:1-11
3/8	四旬節第二主日	ルカ	9:28b-36
4/12	復活の主日	ヨハ	20:1-39
5/10	復活第五主日	ヨハ	13:31-33a, 34-35

6/14	キリストの聖体	ルカ	9-11b-17
7/12	年間第十五主日	ルカ	10:25-37
8/9	年間第十九主日	ルカ	12:32-48
9/13	年間第二十四主日	ルカ	15:1-32
10/11	年間第二十八主日	ルカ	17:11-19
11/8	年間第三十二主日	ルカ	20:27-38
12/13	待降節第三主日	マタイ	11:2-11

(6)通信聖書深読

4月から、朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れて下さることになりました。ご希望の方は下記にご連絡下さい。

連絡：小川和子、寺田紀子

〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22号 TEL.03-3344-1941

[註]「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。参加者は持参下さい。定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上注文されれば、20%引きになります。

記

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL.03-3322-7601
FAX.03-3325-5322

2. 聖書と念祷の集い No.6

星野正道神父（毎月1回）

- ・日 時：7月4日（土）、9月19日（土）3：30～
- ・場 所：上野毛教会・信徒会館 26号室
- ・テキスト：神との親しさ（2）『キリストの対神徳』伊達カルメル会訳、聖母文庫 500円。上野毛聖テレジア修道院（係り竹田さん）にあります。
- ・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようと思いいなる方は連絡網に入っていたいただければと思います。
連絡網に入っていない方は、土曜日の午前9時30分から11時30分の間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。 TEL.03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡
- ・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの霊性センターニュースに掲載いたします。
- ・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されています。
- ・また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神

の民の祈り「教会の祈り」、

- ・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
- ・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
- ・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。

そして大都會の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

3. はじめての沈黙の祈り

今回はじめて沈黙の祈りをはじめてみようと思っていच्छるかたのコースです。音楽を使ったり、体や息を意識しながらやさしく自分のこころの深みに降りて行きましょう

日時：毎月**第一水曜日、夜7時30分**から約一時間

7月1日(水)、10月7日(水)

なお、8月、9月は休みます。

ヘルパー：星野 正道(カルメル会司祭) 嶋崎神学生、松田神学生

(カルメル会)

会 費：なし 自由献金

場 所：カトリック上野毛教会聖堂

東急 大井町線 上野毛駅下車5分

158-0093世田谷区上野毛2-14-25 男子カルメル会修道院

(お通夜などで聖堂が使えない時には信徒会館でいたします。貼り紙に目を留めてください)

4. 祈りの集い

「必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」(ルカ10・42)

時間に追われる毎日…。月に一度、あなたも思い煩いをそつと脇に置き、共に沈黙に耳を傾け、聖霊の息吹きの中で魂の深呼吸をしませんか。

くのり

担当：九里 彰神父

日時：毎月1回 午後7時30分～9時

7月18日(第3土曜) 8月なし

場所：カトリック上野毛教会 信徒会館1階ホール

(葬儀等で使えない場合は、2階の部屋)

内容：聖歌、沈黙の祈り、み言葉、小講話等があります。

(何の準備もいりません。)

5 T . T . クラブ

～10代・20代の青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を始めました。このクラブの特徴は現代社会のムーブメントを題材に、お互いのお話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するというを中心と置きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っています。ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフはここからお待ちしております。

- 第6回 7月25日(土) 「私の隣人とはだれ！」
- 第7回 10月10日(土) 「みんなで遊ぼう！」
- 第8回 10月24日(土) 「今を共に探る1」
- 第9回 11月7日(土) 「ハローウィン・バンクエット」
- 第10回 11月21日(土) 「今を共に探る2」
- 第11回 12月12日(土) 「闇夜に輝く星を探そう」
- 第12回 12月26日(土) 「幼きイエス様を囲んで・バンクエット」

* 時間 いずれもP.M. 7:00からP.M. 9:00まで

* 対象 10代・20代の青年たち

* スタッフ カルメル会士

* 場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 2F

* プログラム

7:00-7:20 はじめの集い (みんなで賛美歌を歌うetc.)

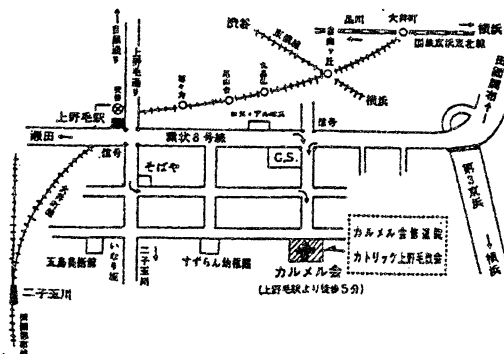
7:20-8:20 分かち合いの時間 分かち合いによりお互いの宝を発見する時間

8:20-8:50 祈りの時間：賛美の祈り・沈黙の祈り・祝福。

9:00 解散

カルメル会修道会 T. T. クラブ係

〒1580-0093 世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-37-4-2171



6. 黙想会のご案内

A. 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

I. 修道女の為

- ① 6月4日(木) 夕食～6月13日(土) 朝食 [9泊] (指導) 星野正道師(了)
- ② 8月4日(火) 夕食～8月13日(木) 朝食 [9泊] (指導) 渡辺幹夫師
- ③ 8月17日(月) 夕食～8月26日(水) 朝食 [9泊] (指導) 九里 彰師
- ④ 12月27日(日) 夕食～1月5日(火) 朝食 [9泊] (指導) 星野正道師

II. 一般信徒の為

- ① マタイ受難曲 2月20日(金) 夕食～22日(日) 午後[2泊](指導) 星野正道師(了)
- ② 四旬節 4月3日(金) 夕食～5日(日) 午後[2泊](指導) 九里 彰師(了)
- ③ 6月14日(日) 夕食～16日(火) 午後[2泊](指導) 奥村一郎師(了)
- ④ 小聖テレジア 10月2日(金) 夕食～4日(日) 午後[2泊](指導) 山田裕於師
- ⑤ 11月21日(土) 夕食～23日(月) 午後[2泊](指導) 九里 彰師
- ⑥ 待降節 12月4日(金) 夕食～6日(日) 午後[2泊](指導) チプリアノ師
- ⑦ " 12月18日(金) 夕食～20日(日) 午後[2泊](指導) 星野正道師

III. カルメル在俗者会の為 (一般信徒も参加可)

- ① 4月19日(日) 午後7時～4月23日(木) 朝 [4泊](指導) チプリアノ師(了)
- ② 5月6日(水) " ～5月10日(日) " [4泊](指導) 星野正道師(了)
- ③ 6月21日(日) " ～6月25日(木) " [4泊](指導) チプリアノ師(了)
- ④ 8月26日(水) " ～8月30日(日) " [4泊](指導) アロイジオ師
- ⑤ 10月30日(金) " ～11月3日(火) " [4泊](指導) 奥村一郎師

I、II、III 申込み、詳細のお問い合わせは:

TEL. 03-5706-7355 上野毛聖テレジア修道院(黙想)(竹田)
または、080-72-09950(竹田直通)

IV. 青年男女

A 東京テレジア修道院(黙想)

- ① 5月22日(金) 夕食～5月24日(日) 午後[2泊](指導) カルメル会士(了)
- ② 11月13日(金) 夕食～11月15日(日) 午後[2泊](指導) カルメル会士

B 北海道男子カルメル修道院(伊達)(男子のみ)

- ① 5月16日(土)～17日(日)(了)

申込み、詳細のお問い合わせ: 葉書かFAX.で、黙想会担当神学生まで
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-3704-2171, FAX. 03-3704-1764

聖書深読黙想会

対象：一般

2月21日（土）	夕～22日（日）午後	指導：大瀬高司神父（〒）
6月6日（土）	夕～7日（日）午後	指導：奥村一郎神父（〒）
9月19日（土）	夕～20日（日）午後	指導：中川博道神父
11月14日（土）	夕～15日（日）午後	指導：奥村一郎神父

申込：有光信子

{tel 0748-67-8132}

青年男性のための黙想会（高校生以上）

6月20日（土）	夕～21日（日）夕	指導：カルメル会士（〒）
11月28日（土）	夕～29日（日）夕	指導：カルメル会士

若い女性のための黙想会（高校生以上）

5月2日（土）	夕～4日（月）夕	指導：大瀬高司神父（〒）
(テーマ) 「聖母マリア」		
10月3日（土）	夕～4日（日）夕	指導：大瀬高司神父
(テーマ) 「幼きイエスの聖テレーズ」		

男性のための黙想会（一般）

7月18日（土）夕～19日（日）夕 : カルメル会士

半日の黙想会

対象：一般

5月21日（木）	10:00～16:00	指導：中川博道神父（〒）
10月29日（木）	10:00～16:00	指導：中川博道神父

沈黙の祈り

対象：一般

4月25日（土）	夕～26日（日）昼	指導：奥村一郎神父（〒）
11月21日（土）	夕～23日（月）昼	指導：奥村一郎神父

※申し込み先：霊性センター大阪・中尾栄作 Tel.0726-83-0903

修道女のための黙想会

8日間の黙想

7月24日（金）	夕～8月2日（日）朝	指導：ペトロアロイジオ神父
8月18日（火）	夕～8月27日（木）朝	指導：大瀬高司神父

3日間の黙想

5月29日（金）	夕～31日（日）夕	指導：奥村一郎神父（〒）
10月16日（金）	夕～18日（日）夕	指導：長岡幸一神父
12月11日（金）	夕～13日（日）夕	指導：奥村一郎神父

宇治カルメル会聖テレジア修道院（異名 栞貝）

〒611 宇治市木幡御蔵山39-12

Tel 0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

断想 (128)

祈りの神学⑤

祈りの底にあるもの
— 歌を忘れたカナリヤ —

前号、「神の似姿」から「キリストの似姿」へというテーマは、祈りの心の奥底にある人間の基本的構造（別の専門用語では「存在論的構造」）を示すものである。

ここでは、祈りの存在論と深い関係をもつ、祈りの心理について考えてみたい。事実、人間の心、すなわち心理構造は祈りだけではなく、すべての事柄において、「存在と心理」との奇妙な交錯がみられる。まずその一つとして「関係と関心」ということ。奇異なことに、われわれは、最も関係の深いものに対し、それらしい大きな関心をもつとは限らないからである。また逆に、たいして関係のないことに、異常な関心、こだわり、ひっかかりをもつことがしばしばある。

つまり、ほんとうの大事には無関心、それに対してどうでもよい小事がひどく気になる。このことについて、フランスの著名な哲学者、数学者でもあったパスカルの名言がある。

「小事に対する人間の敏感と、大事に対する無感覚とは奇妙な転倒をなしている」

（パスカル「瞑想録」101）

敬虔なキリスト者のパスカルにとっては、小事とは名誉とか評判とか世俗的なことを指し、大事とは、永遠の救いとか魂の滅びのことを指していた。すこし別の角度から見ると、大事にあたるものは、人間にとって最も身近なもの、不可欠なものをさす。事例としては、自分自身とか、生命、また命を与え、絶え間なく支えていてくれる空気とか太陽、大地などなど。

われわれは、そのどれ一つも一刻も欠くことはできない。しかも、そうした大事に感謝し、感動することを忘れている。

それよりも、世間的な成功や、衣食住には細かなことまで心をくぐり一喜一憂している。パスカルのいう小事である。

聖アウグスチヌスのいうように、「神は自分自身よりも自分に近いもの」であるならば、最も身近な関係にある神に対して、最も無関心、無感覚のまま日々を過ごしていることもありふれた悲劇とも言える。

無神論ということも、その意味で不可解なものではない。そこで、神との関係を生きることを祈りというなら、歌を忘れたカナリヤのように、祈りを忘れた現代人の自己喪失というのも不思議なことではないというより当然のことである。

むしろ、その自分よりもなお身近な神との関係に無関係、無関心でおれる自分自身の、奇妙な転倒にきずく驚きが心の奥深い処における祈りの目覚めなのである。「神なしに、人間は人間になれない」といったドストエフスキーの言葉が思い出される。

ヘンリ・ナーウエンの 「旅路の糧」③

人生の杯

ヤコブとヨハネのお母さんが、息子たちのために神の国で特別の席を用意して下さるようイエスさまに頼むと、イエスさまはお答えになります。「この私が飲もうとしている杯を飲むことができるか」（マタイ20：22）。「杯を飲むことができるか」というこの問いは、私たちが自らに問う問いの中でもっとも挑戦的、徹底的なものです。杯とは、人生の杯、悲しみと喜びに満たされた杯のことです。私たちは、その杯を取り、それを自分のものと断言できるでしょうか。他の人々に祝福をもたらすためにその杯を取ることができるでしょうか。私たちに救いをもたらす杯としてその杯を飲み干すことができるでしょうか。

この問いを私たちの中に生き生きと保つことは、私たちが実践できるもっとも厳しい霊的修練の一つなのです。（509）

杯を取ること

私たちはみな、自分の人生の杯を取らなければなりません。私たちが年を重ね、人生の多くの悲しみ—個人的な失敗、家族のいざこざ、仕事や社会生活での失望、国内や国外の私たちを取り巻く多くの苦しみ—に十分注意が向くようになるつれ、私たちの内や外にあるすべてのものが、これらの悲しみを無視し、避け、抑圧し、単純に否定するよう仕向けます。「人生の日のあたる部分を見なさい。それをよく活用しなさい」と私たちは自分に言いかけ、他の人々も私たちにそう言うのを耳にします。けれども、私たちが人生の杯を飲もうとする時、まず最初にその杯を取ることが、すなわち、私たちが生きているすべての現実をありのままに認めることが必要なのです。悲しみを避けるのではなく、その友となることによって、私たちはまさに悲しみの真っ只中で探し求めているまことの喜びを見出すことを信じながら…。（510）

杯を持ち上げること

私たちが悲しみや喜びをありのままに認め、人生の杯をしっかりと手に取る時、人との連帯の中で杯を持ち上げることもできるでしょう。杯を持ち上げるということは、私たちが自分の生きているすべての現実を恥ずかしがらないということであり、その仕草が、真実の友となろうとしている私たちのように、真実と友となるよう他の人々を励ますのです。杯を持ち上げ、お互いに「人生のために」とか「あなたの健康のために」とか言うことによって、私たちは共に自分の人生をありのままに見つめることをいとわないと宣言しているのです。こうして私たちは、自分に与えられた杯を、それらが私たちをまことの完成へと導いてくれることを確信しながら、すっかり飲み干すよう互いに励まし合う人々の共同体となることができるのです。（511）

キリシタンのころ (5)

嶋崎 浩樹 (カルメル会神学生)

第四章 キリシタン時代の信徒使徒職

一. 司祭を支える信徒の組織

1) 同宿

同宿は、司祭を補佐して信徒や求道者に対してキリスト教の教義を教えたり、キリストの教えを説教したり、司祭に同行して典礼儀式の侍者を行っていた。(いわゆる、伝道師や説教師というものである。)

彼らは、この世界から身を引き修道者に準ずる生活を行っていた。修道服に似たものを着、髪の毛も剃っていた。正式な誓願は立てていなかったが、貞潔と従順の誓いは立てていた。今で言う在俗修道会の走りであり、修道第三会とか在俗者会と言われている修道会のもとにある信心会のような生活をしていた。ゆえに彼らは、修道院やこれに類する施設に住んでいた。また、この人々の中から修道士に採用されていった。

2) 小者

小者は、司祭や修道士、同宿に同伴して身の回りの世話をしていた。巡回布教における聖具の管理やその他のものの運搬やその使い走りをしていった。(いわゆる、下僕や従者というものである。)

3) 看坊

看坊は、教会から任命されて司祭が常住できなかった教会の管理をし、その地域のキリスト教信者の世話をしていた。その地域におけるリーダー役である。彼らは、教会の維持管理を行うと共に、信徒や求道者たちにキリストの教えを教えたり、祈りを教えたりしていた。また、仲裁者として、信徒の宗教生活の指導、緊急の場合に洗礼を授けること、病人や臨終を迎えようとしている人を助けること、また埋葬等の世話をしていた。

月に一度は、主要聖堂に集まり活動や信徒の状況についての報告をし、また霊的指導を受けていた。彼らはたいてい髪を剃り、特別な着物を着、典礼行事の時には、短白衣(スルプリ)を着て活動していた。

彼らの収入は、教会維持費と教会からの給与によって賄っていた。

この同宿、小者、看坊という組織は、迫害下の潜伏キリシタンの信仰を保つ上で大きな役割を果たした。カクレキリシタンの組織では、重要な資料と聖なる道具を守る「帳方-帳役」、洗礼を授ける「水方-水役」、そして、「帳方」や「水方」を手助けする「聞役」と分けられている。この「帳方」をリーダーとして洗礼を授け、また、信徒の家に集まって祈りをして、信仰を約250年にわたって守り続けた。

二. 慈善事業

社会福祉事業がまだ国家レベルで行われていないこの時代、キリシタンたちはポランティアによる慈善活動を行った。これは、ポルトガルでの同様の慈善活動組織、「ミゼリコルディアの組」を参考にして創立されたものである。最も盛んに活動していた長崎の例を見ながら、当時の社会福祉事業を見ていきたいと思う。

ミゼリコルディアの組の「職務は、貧者や病人を見舞うこと、誰かから施しものを受け取った場合には、これを最も窮乏している人たちに分け与えること、誰かが公然たる罪に陥った生活をしている場合はそれをやめさせるようにつとめ、あるいはばあでれに知らせてそうしてもらうようにすること、病人に告白をするように勧めること、臨終の人たちを助けること、死者の埋葬について教会に報告すること、死者の葬式の準備をすることである。」また、三つの施療院（病院）も経営しており、一つは老人のため、二つ目は貧しい年輩の女性のため、もう一つは不治の病に罹っている人のためである。これらの事業の運営はすべて寄付によってまかなわれていた。

またこのほかにハンセン氏病をはじめとする病気や醜悪な症状を示す皮膚病患者を収容する病院が長崎、京都、大坂など各地に設立され、それまで気持ち悪がられて手当を受けることもできなかつた人々が、この病院に収容され治療によって治る人も多かつた。

他に、津軽地方が飢饉で食料に困っていると聞いたなら、自分たちのお金も少なく、収穫も決して多くもないにも関わらず金二千枚を集め、送っている。

この組の者たちは、愛徳という目に見える形での使徒職を行うばかりではなく、よく祈っていた。たとえば、1614年に禁教令が發布されたとき、長崎の信者たちは一ヶ月にわたり種々の償いと祈りを行った。そのうち三日間の聖体顕示が行われていたとき、ミゼリコルディアの組の会員と組の経営する施設の従業員は、施設から教会まで行列をし、顕示された聖体の前で一時間祈った。

このような敬虔な姿を見ていた政府は、1587年秀吉による禁教令が發布され、教会が閉鎖されたときにも事業の継続をすることを許され、1620年に閉鎖されるまで、貧しい人々や亡くなった人々のために献身し続けたのである。

三. 信心会

キリシタン時代には、多くの信心会（組）が創立されている。そこで、それぞれの信心会の活動内容を簡単に見てみることにする。

① イエズスのみ名の組

1614年、教区司祭フランシスコ・アントニオ村山神父が始めた「サンタ・クルスの組」がその前身である。村山神父の死後、ドミニコ会に引き継がれ「イエズスのみ名の組」になったのである。この信心会は、階級、性別、年齢に関係なく誰でも入会が許された。「会員の義務は、イエズスのみ名を大切に、毎月二番目の日曜日に特別なミサにあずかり、その他、信者の相互援助と慈善業に努めることである。会の祝日は、毎年一月一日の「ゼズスのみ名の正日シルコンシション」であった。それはすなわち、イエズスが生まれてから八日目に、その名を付けられた記念日である」。特別な信心業としては、イエズスのみ名を中心とする一種のロザリオやラテン語によ

るイエズスのみ名の連禱を唱えることである。

この組には「ヌメロ」と呼ばれる組員がいた。「彼らの仕事は迫害下に宣教師たちを匿い、必要な所へ案内し、病気の際には看病し、危険から救い出し、また牢内に忍び込み囚われているキリシタンを励まし、殉教の時には先頭に立つことであった」。このような活動をしているので、当然自分をはじめ家族や向う三軒両隣の者も死罪となることを覚悟してのことである。

② サンタ・マリアの組

1587年の秀吉による禁教令発令により、神父たちは追放され、司牧者を失った信者たちは互いに支えあい、集会を開くためにいくつかの信者団体を結成した。これは、イエズス会のオルガンティノ神父の指導によるものである。この信心会が正式にローマの聖母信心会の支部として認められたのは、1603年の2月か3月である。

イエズス会の年報によると、「お告げの組は会員五十人で、徳を修め、信心を養い、速かに罪を悔い、苦行をし、互いに欠点を教え、日々喜捨金を持参して貧民を救い、教えを説き、またしばしば病人を見舞い、これを慰めてその用をつとめる。彼らの一人はある日、街路に捨てられた異教徒の病人を見て、その世話をし、教えを説いて洗礼を受けさせたが、それが終わってその人はあの世に移った」。

弾圧と迫害が起こるとイエズス会の宣教師たちは、この会を強化し、信徒たちの団結と霊的準備のための信心会としていった。

③ ロザリオの組

1609年にドミニコ会が長崎に移ってから、「ロザリオの組」が組織された。熱心な会員となった者の一人に長崎代官の村山等安とその家族がいた。神父たちは特別にこの信心会に力を注いでいなかったが、弾圧と迫害が激しくなってくると、先のサンタ・マリアの会と同じく信者たちの団結と相互援助を強化するために、この信心会の組織化に力を入れていった。

④ ベアタス会

信心会が一步進んで、女子修道会が創立された。正確には、ローマの認可を得ていないので修道会とは言えないが、生活形態は修道会と何ら遜色はなかった。

この会は、丹波の国の領主ジョアン内藤飛騨守忠俊の妹ジュリアが中心となって1596年に京都四条のイエズス会の教会に隣接したところで創立された。この会の会員は、高級武士の未亡人や朝鮮の上流社会の者の者、また大名の娘など当時の上流階級の乙女や未亡人たちで占められていた。ゆえにその地位を利用して彼女らは、男子修道会の全く手の届かない、大奥や上流階級の婦人たちへの宣教活動を行っていた。

彼女らは、イエズス会のオルガンティノ神父やモレホン神父の指導により会則が作られ、清貧、貞潔、従順の三誓願を宣立した。

彼女らは、1614年11月8日、高山右近、ジュリアの兄内藤徳庵らと共にマニラに追放された。このときの会員は、15名である。彼女らの働きはこれで終わりになったのではなく、マニラにおいてもその生活を約40年にわたって続けられた。

⑤ その他

このほかにもドミニコ会の第三会などの信心会が多く結成され、慈善事業や霊的成長をはかっていた。これらの信心会ができた背景には司祭不足といった側面も否定で

きないが、信徒たちが自主的に率先して活動を推進していたのである。司祭はこれらの信心会を霊的な面や経済的な面において支援していたのである。そして、この信心会があったからこそ、約250年にわたる禁教令による迫害に耐え、潜伏し続けることができたのである。

この「キリシタンのこころ」は、実習として行っております。ご意見、ご感想等がございましたら、下記までお寄せ下さい。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会
嶋崎 浩樹まで



『神の賜と教会生活』（2）

松田 浩一 訳
(カルメル会神学生)

ー 1994年4月24日、世界召命祈祷日に向けての教皇ヨハネ・パウロⅡ世のメッセージよりー

「それゆえ、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」
(マタイ9：38)。

召命の司牧的配慮は、第一に家庭へ向けられます。実に両親は、司祭・修道者へ息子・娘たちの一人を呼ぶということの中に、神が両親に与える恵みとして、その受けとめ方を知るべきです。そのような恵みは、若者たちに神への奉獻の喜びと豊かさを気づかせるような教育の意味で、上記の御言葉のように、祈りのうちに求められなければなりませんし、積極的に受け入れなければなりません。

感謝と喜びの心をもって、神の国のための特別な奉獻への息子・娘の召しだしを喜ぶ両親は、靈的な一致の実りを表す特別なしるしを受けます。両親は、息子・娘を独身生活と童貞性のうちに生きるようにと送り出すという体験によって豊かになる、靈的な一致の実りを表す特別なしるしを知るからです。

これらの両親は、いわば息子・娘の召命に感謝しながら、彼らの中にある愛の贈り物が人間の愛の次元を超えて増し加えられことを驚きをもって発見します。

宣教のこの大切な側面へ家庭を導くことは、花婿であるキリストに向けられる司牧活動と、「キリストが自分の花嫁を愛して自分をそのために渡したその愛の共有のしるしとして、母なる教会の豊かさの証人ならびに協力者」(教会憲章 NO.41)となる両親を必要とします。

家庭は召命の天然の「養成所」です。それゆえ、召命の司牧的配慮はきちんとした職務的見地をもって特別な注意が向られるべきです。

「共同体で責任持つ人は、熱心に世話をしなさい」(ロマ12：8)。

御父に向かって、キリストに従って共に歩むことは、召しだしの最もふさわしいプログラムです。もし、司祭・修道士・修道女・宣教師・委託された信徒が家庭に

関わり、福音を生きるための共通の探求と対話を強めるならば、家庭が召命と聖別奉獻生活の第一の神学校のようなものに高められるでしょう。

司祭・司教・信徒は、家庭生活の問題に心を留めるように。そして、福音を宣教する意味で、キリストの配偶者に責任をもって光をあたえるように。そのことによって信仰のうちに生きている両親が、召しだしを受ける息子・娘を導くことができるでしょう。

学校・病院・福祉施設・教区に働いていて、家庭に特別に近くにおいて、そして家庭に受け入れられている修道者は、キリストの贈り物である喜びの証しをしなさい。清貧・貞潔・従順の誓願をもって生きる生活にしたがって、キリストの配偶者の永遠の価値のしるしとなり、そしてその招きとなりなさい。

教区は家庭に対する宣教に責任を感じてください。そして早急の結果を期待することなく長期計画をもって支えてください。

わたしは、委託された信徒たち・カテキスタたち・若い夫婦たちに、家庭の中でカテケーシスの務めを委ねます。寛大で信仰深い奉仕をもって、彼らが子供たちに信仰と教会的経験の最初の味わいをもたせませすように。

わたしの思いは、特別に、第一の責任者にして第一の促進者である、尊敬する司教団の皆さんに向かいます。わたしは、かれらが召命の司牧的配慮にすべての努力をするように勧めるとともに、召命の司牧的配慮が家庭と共に組織的に取り組まれるようお願いいたします。

霊性センターニュースの

8月号はお休みします。

フォコラーレニュースより

赦されて、愛する

この人が多くの罪を赦されたことは、
わたしに示した愛の大きさに分かる。

あなたは今までに、ゆるしの秘跡を受け、神様に赦しを願った時、自分の罪の重荷から解放される経験をしたことはありませんか。幸せで満たされ、小鳥のように軽く、自由になった自分を見出だし、愛したいという望みを感じたことはありませんか。もう神様に背かずに、神様を愛し、隣人を愛したい、という望みを。

もしそうなら、この聖書の箇所に出て来る罪深い女性が、心に感じたことを、あなたも少しは経験していることになるでしょう。

この女性は、イエスが会堂や町の広場で、どんな罪人にも赦しを与えられる御国の訪れを告げ知らせておられるのを、聞いていたのかもしれませんが。

彼女は、これほど自分を愛してくださる神様の愛、ご自信との交わりに彼女を招き入れてくださる神様の愛に、深く心を揺さぶられ、イエスを探しに出かけたのでしょう。

そしてイエスが、シモンというファリサイ派の人の家で食事を取っておられるのを知り、彼女はそこを訪ねて行きます。イエスのもとに近寄り、泣きながら、その足を涙でぬらし始めました。そして、自分の髪の毛でぬぐい、石膏の壺に入った香油を、イエスの足に塗って差し上げたのです。

この人が多くの罪を赦されたことは、
わたしに示した愛の大きさに分かる。

このような行いを通して、罪深い女性は深い感謝の思いを表しています。「示した愛の大きさに分かる」と記されている通りです。

彼女は、イエスの内に救いを見出したことを確信しています。香油を塗る行為には、イエスへの崇敬の思いが示され、足に接吻する姿は「あなたは私のいのちを救ってくださいました」と言っているかのようです。

この時、彼女は自分の髪の毛を人に見られることも、気にかけていません。それは中近東の女性にとって、恥ずべき行為なのですが、彼女には、それさえも大切ではなかったのです。

一方、ファリサイ派のシモンは、当然この女性のことも、イエスのことも理解できませんでした。律法によれば、罪人とかかわることは禁じられていたからです。

そこでイエスは、借金をした二人の人のたとえを用いながら、「多く赦された者は、多く愛する」ことを教えてください。

この人が多くの罪を赦されたことは、
わたしに示した愛の大きさに分かる。

イエスは、罪深い女性が、ご自分に対してしたことを、よいものとして認められたわけですが、シモンに向かっては、次ぎのようにおっしゃいます。「私があなただけの家に入った時、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙で私の足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた」（ルカ7・44）と。

シモンは、自分は律法を守る正しい者だ、と自負していたのですが、イエスが言われるような「もてなし」をなおざりにしました。また、あの女性がイエスに対して抱いていた感謝と愛も、シモンには欠けていました。彼は、あの女性がしたような強烈な体験をしていなかったのです。赦しを与えてくださる神様によって、自分が自由にされる経験もなく、イエスに対する特別な愛を持ってはいませんでした。また、回心する必要も感じていず、罪深い女性が赦されて、神様に近い存在となっていることにも、シモンは気づかなかったのです。

この人が多くの罪を赦されたことは、
わたしに示した愛の大きさに分かる。

この言葉を、ただ次ぎのように解釈する人がいるかもしれません。「この女性は多く愛したので、多くの罪を赦された」と。しかし、このエピソードを見てみると、彼女は赦しを受けたからこそ愛することができるようになったのが分かります。イエスに対する彼女の感謝の思いは、自分の多くの罪が赦されたことを示すものです。実際イエスは、最後に次ぎのように言われました。「赦されることの少ない者は、愛することも少ない」と。これは、私たちにも言えることではないでしょうか。

私たちは自分が神様から先に愛され、赦されるのを経験したからこそ、愛する力、どんな時にもやり直す力を得ることができたのです。

この人が多くの罪を赦されたことは、
わたしに示した愛の大きさに分かる。

「わたしに示した愛の大きさに分かる。」罪深い女性は、神様から愛されていることに気づき、自分からも愛するようになります。ですから彼女は、キリスト者の模範となる存在です。キリスト者の務めは、神様を愛し、隣人を愛することの中に、要約されるからです。

この女性のように、神様とその愛に立ち帰る姿は、大きな回心をした人々の中だけに見られる、特別なケースではありません。そうではなく、ここで語られる教えは、すべての人にあてはまるものです。

神様は、失ったものをご自分から探しにいかれる方です。神様のみ心は、より憐れみが必要としている人々に、特に向けられています。実際イエスは、「徴税人や罪人の仲間だ」といって、非難されました（ルカ7・34）。

神様は、このようなご自分の愛によって、人の中にも愛を呼び起こしてください。そして、ご自分と私たち一人ひとりとの間に、掟を越えたところで築かれる、生き生きとした交わり、私たちが「キリスト者」であるためには欠かすことのできない、この交わりを結んでくださるのです。

キアラ・ルービック

忍耐について

質問 忍耐はキリスト教の重要な徳の一つですが、心理学の立場からはどう見られますか？

答 忍耐を心理学的立場からとらえるのは難しいことです。例えばフロイドはその記念碑的な著作の中で、忍耐については論じていません。しかし忍耐は他人との関係において、また自己自身との関係において、必要な徳の一つだと言えるでしょう。ある人は忍耐は最も英雄的な徳だと言います。なぜなら少しも英雄的ではないから、と。実際、忍耐を生きられるのは自分自身に打ち勝つことを学んだ人であって、だれにもできるというわけではありません。陽気な気性に反するものは、忍耐の不足である、というのも一理あることです。この事実を中国のある諺は次のように表現しています。「見るだけで、卵さえ歌い出す。」

忍耐を定義すれば、苦しみを恐れず、待ち続ける勇気だと言えるでしょう。自分の考えを伝える時、話す時、判断する時、不平を言う時、行動する時をじっと待つこと、要するによく苦しむことを知ること、つまり忍耐とは苦しむことができるための技なのです。またそれは水滴が岩に穴をうがち、蚕が桑の葉を絹に変えるように、すべてに時があることを知り、希望を持ち続けるための技でもあります。

事実、何でも人生において価値を持つものは、時間と忍耐を必要とします。何か重要な物事を考えてみて下さい。夫婦お互いの関係、職場の上司との関係、友達との交わり、子供の養育、ピアノのレッスン、資格の習得、すべてこれらの実現には時間と努力が必要です。自然界もまたそのように時間を用います。グランドキャニオンやアルプス山脈がどれほどの時間をかけて作られたかを想像してしてみてください。そしてまた、真に偉大なことを実現しようとするならば、最初の試みが成功することはごく稀であることも心に銘記すべきでしょう。アブラハム・リンカーンは大統領に選ばれるまで、4回も選挙に敗北しました。エジソンは2千回の試みの後やっと電灯を発明したのです。

自己自身に対して忍耐するとは、待ち、逆境に耐え、一步一步進み、失敗したらまた立ち上がり、いつもやり直すことです。一方、人間関係において忍耐とは、相手に時を与えることだ、と言えるでしょう。相手が語り始める時を待つ、学び、試

し、間違いを正し、成長して行く時間を与えることです。

理解し、過去を赦し、将来に期待するためには、福音に出てくる下僕のように、「主よ、私に対してどうか忍耐をお持ち下さい」と繰り返して祈らなければなりません。この理由から、忍耐はあらゆる教師の根本的な徳だと言えるでしょう。

さらにまた、私たちは忍耐を持って、日常生活の灰色で面白味のない現実直面しなければなりません。どんな職業であっても、決して毎日が楽しく、興奮をもたらし、魅力を持つものであるわけではありません。でもそのような幻想や期待に胸を膨らまさない人がいるのでしょうか？ 医学を志す学生は、何か難しい治療法を発見しようと夢見ることでしょうが、医者になった後には、風邪や消化不良の処置に毎日を送らねばなりません。大きな罪人を回心させるのを使命と考えて叙階される若い司祭は、どうということのないささやかな罪の告白を幾度となく聞かされるでしょう。法廷での名演説を予想していた弁護士は、書類の山に埋もれた日々送るでしょう。

最後に、人々から批判されたり侮辱されたりした時に、どんな態度をもって耐えていくべきかについて、レオナルド・ダ・ヴィンチが語った言葉を紹介しましょう。

「侮辱に対する忍耐は、寒さに対する上着のようなものだ。寒さが増してきたら、重ね着をするように、人々が悪口を言う時は、忍耐を重ねて着る必要がある。こうしていれば、心は決して傷つかない。」

パスクワレ・ヨナタ

フォコラーレ本部

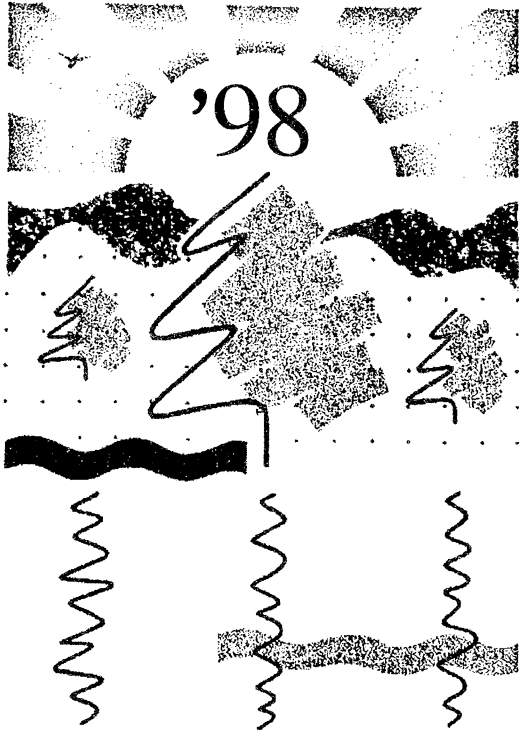
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055



マリアポリ



富士吉田◎七月三十日―八月二日

フォコラーレ

日時：7月30日（木）午後1時 受付開始
午後2時 プログラム
8月 2日（日）午後2時まで

場所：富士吉田青少年センター
山梨県富士吉田市上吉田4 4 3 3-1
電話：0 5 5 5-2 3-7 2 5 2（夜10時30分まで）

費用：大人 22,000円 小・中学生 15,000円
学生 17,000円 幼児（4才以上） 9,500円

準備の都合上、参加ご希望の方は、内金2,000円を添えて、遅くとも7月20日までに、下記センター宛にお申し込みくださるようお願い致します。

なお7月30日は、昼食を済ませてから会場へお越しくださるようお願い申し上げます。

詳細は下記のセンターまでお問い合わせください。

郵便振替00190-0-65708

フォコラーレ・センター

男子フォコラーレ・センター

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-19-9
電話（03）3399-5508
〒852-8016 長崎市宝栄町8-17
電話（095）862-4133

女子フォコラーレ・センター

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪2-10-15
電話（03）3332-8460
〒852-8105 長崎市日覚町14-2
電話（095）848-7281

蛭田 幼一

この化石の場所を

僕の冷たさが僕を責める。心が苛立っている。空は南国の空のよう、鉢植えのハイビスカスが綺麗だったのに、夏がすぎ、冬になって。僕は発ってゆこうか、季節とともに。どこかで又春がめぐり、冷たい風がそよ風になって、僕を励ましてくれるかもしれない。あなたのように生きることができるかもしれない。僕は発ってゆこうか、この化石の場所を。

(筆者は聖書深読・聖書と今宵の集い参加者)

諸所の企画についてのご紹介

“限りある資源を大切に”の環境アセスメントへの協力のため、読者の方々へご参考になればと思いご紹介、掲載しておりました研究会・行事等のお知らせを下記のように簡略させていただきます。どうかご理解いただきますように。各企画に興味のある方、時間のゆるす方は、各々の所へ詳細をお問い合わせの上、ご利用、ご参加下さい。

I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 TEL&FAX. 3594-2247

II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III 風の家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『^{フクマ}風』編集者

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-5-10-101

Tel・FAX 03-3205-6923 詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV 生命山カトリック別院

場 所：〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

A 黙想会 指導：フランコ神父

(a)7月31日(金)～8月9日(日) (b)8月16日(日)～24日(月)

(c)9月3日(火)～9月9日(水)……………司祭

開始：17時 終了：朝食後

B 研修会 活花と典礼 10月4日(日)～5日(月) 開始：15時：

黙想会 座禅と聖体礼拝：11月14日(土)～15日(日) 終了：15時

C 祈りの集い 年間テーマ：詩編を祈る(10時～15時)毎月下記木曜日

6/11, 9/17, 10/8, 11/12, 12/10.

このほか、個人、グループでも黙想会などできます。お申込みは生命山別院へ

V 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会)

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

詳細問い合わせは電話で。

VI リーゼンフーバー神父による研究会

①キリスト教入門講座 日 時：金曜日 18：45～20：30

場 所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール

各会のテーマ

7/3 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕え

- 7/10 イエスお人間関係ー罪人と弟子と共に
 7/17 イエスは誰かーイエスの自己理解
 7/24 最後の晩餐ー自分を与えるイエス
 7/25 ミサ (16時、クルトゥルハイム)
 7/31 休み

②神学読書会 日 時：毎月第2・第4 (第5)水曜日 18:30~
 場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期参加

③聖書研究会 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~20:00
 場 所：S.J.ハウス第5会議室
 日 時：木曜日 12:40 ~13:25
 場 所：上智大学7号館 316号研究室

④坐禅会 日 時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30
 場 所：クルトゥルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。

接心関 東 { 8月12日(水)20時30分~19日(水)16時 秋川神冥窟 1泊2400円
 10月30日(金)20時30~11月3日(火)16時
 1999年2月20日(土)8時30分~21日(日)17時
 上石神井イエズス会黙想の家 5400円

関 西 { ②の1,9月26日(土)11時~27日(日)16時
 ②の2=黙想会:7月31日(金)17時30分~8月6日(木)13時、
 連絡先 ②=岸本正 ☎078-583-3067

⑤ミ サ：水曜日 17:10~18:00 場所：クルトゥルハイム1階古小聖堂(除、4/29, 8月)

⑥黙 想：水曜日 18:00~18:30 場所： (同上) (同上)

⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S.J.ハウス第5会議室
 、7月11日、8月8日、9月12日、10月17日 11月7日、12月5日、99年1月9日、2月27日 3月13日

⑧黙想会：、8月23日(日)20時~30日(日)14時、9月19日(土)10時~20日)15時
 11月21日(土)10時~23日(日)15時 99年3月20日(土)10時~21日(日)15時

一泊 4200 円程度

⑨アガベ会：説明会と集い 下記の日13時30分~ 20代~40代の信者
 10月4日(日)、99年1月16日(土)

場 所：s.J.ハウス会議室

⑩クリスマス会 : 12月19日(土)16時30分~ 場所かつらぎ会館地下ホール 要申込み
 ミ サ : 12月23日(水)14時~ 場所：学内クルトゥルハイム聖堂

◎ 以上、詳細を知りたい方は下記へお問い合わせ下さい。

102-0094東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス TEL. 03-3238-5124
 直通電話 03-3238-5124 5111(伝言)

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.0423-93-3181 FAX 93-2407

A 黙想会

B 「知恵文学」を通して主をみつめる

日時：毎月最終木曜日 (7、8月は休み) 2.00p.m.~3.30p.m.

講師：シスターマグダレナ

C 「十字架の使徒職」の集い

目的：洗礼による祭司職を生き、司祭のために祈る信者の集い。

指導：本会会員

対象：キリスト信者および求道者

例会：①第1グループ毎月第二金曜日(14:00～15:30)

②第2グループ毎月第一木曜日(14:00～15:30)

D 「キリスト教講座」

(1)毎週木曜日 10:00～11:30

(2)毎週金曜日 10:30～12:00

VII マリアの御心会(明泉会)

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TEL.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

①聖書深読黙想会 —主日の福音を中心に—

隔月・日曜日 10:00a.m～5:00p.m..

9/13, 11/8, 1/10, 3/14

②黙想と祈りの集い ……テゼの歌をうたいながら

隔月・日曜日 4:00～6:00p.m.

7/12, 10/18, 12/6, 2/14

③霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師 (イエズス会)

第3土曜日 6:00～8:00p.m.

II ①聖書会 …詩編を読む…

毎月第1月曜日 10:00～12:00a.m. 4/6～

②聖書通信深読

木曜日 6:30～8:30pm. 4/23～

IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

A 祈りの集い (奇数月)

③期日：7/4(土)16:00～5(日) 15:00

「エウカリスティア」・・・Sr.ジュリアノ(M.O.P.P.)

④期日：9/19(日) 16:00～20(日)15:00

「昔話で祈る」・・・Sr.増田(聖心会)

⑤期日：12/5(土) 16:00～6(日) 15:00

「待降節祭を祈る」・・・Fr.星野(カルメル会)

⑥期日：1999/1/30(土)16:00～31(日)15:00

「いのちの深呼吸…テゼの歌をうたいながら」・・・植松師

午後ひととき、静かに過ごしてみませんか？

時： 毎月 第二土曜日 午後4時～午後5時

場所：不二聖心のキャンパスにあるどこかの聖堂(四箇所の一つ)

(当日黙想の家の玄関に表示します。)
内容：沈黙の祈り
(7/11, 8/8, 9/12, 10/10, 11/14, 12/12)

申込み先：上記黙想の家 Sr. 足立万利子 (FAXまたは葉書)

B 黙想会

☆ 8日間の個人黙想会

② 7月6日(月)～15日(木) ヘルパー司祭、シスター数名

③ 9月1日(火)～11日(木) //

☆ 若者たちの集い

② 10月9日(金)泊まり～11日(日)午後3時

☆ 婦人黙想会

② 9月28日(月)午後2時～29日(火)午後3時

C 一日黙想会 講師：カルメル会司祭星野正道 場所：聖心会若宮共同体

④ 9月29日、⑤ 11月10日

上記Bの☆マークの黙想会およびC一日黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：

165-0033東京都中野区若宮3-9-4 若宮共同体

聖心会シスター交野(かたの)

TEL. 03-3337-3291

X カトリック内観研究会

代 表：藤原直達(大阪教区司祭)

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内
TEL&FAX. 03-3862-8876.

内観黙想・予定日

B. 7/1-8 夕方迄 茅ヶ崎(7日間)	C. 7/31-8/7 夕方迄(7日間)
D. 8/14-21 昼迄 白子(7日間)	E. 9/22-29 夕方迄(7日間)
F. 10/11-18 夕方迄 茅ヶ崎(7日間)	G. 10/30-11/3 夕方迄(3日間)
H. 11/26-12/3 夕方迄. 茅ヶ崎(3日間)	

それぞれ午前中から始まります。絶対沈黙で面接が一日6～8回あります。

予 約：定員がありますので、手紙・はがきで連絡して相談してください。

費 用：D以外は一日6千円程度で宿泊日数分を喜捨していただいています。

持ち物：着替え、洗面具、シーツ、タオル3枚(布団の襟巻・枕カバー)。

一週間できない人のために、特例として3日間の内観を数回続けるという条件で申し込みが可能ですので、上記以外で希望される方の相談にも応じています。

上記の連絡先へハガキかファックスで。

上野毛、宇治、大分、

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎ 158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

☎ : 03-5706-7355

携帯☎ : 080-72-09950

FAX : 03-3704-1764

東急、大井町線「上野毛駅」下車 徒歩7分

かみのげ

※☎ 611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「六地藏駅」下車 徒歩15分

ろくじやう

おくらやま

京阪バス：六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車 徒歩5分

※☎ 870-1152

大分市上宗方 1800-3

☎・FAX 共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明積橋を右折、

あけがわらばし

男子跣足カルメル修道会

お 原 頁 い

投稿下さるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送り下さい。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送って下さい。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224 神奈川県横浜市都筑区仲町台-3-15-5

☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きて下さいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道